

☆医療的ケア児交流

子供同士、新たな刺激に 2泊3日で大山キャンプ、花火や星空鑑／鳥取

毎日新聞 2018年12月20日 地方版

https://mainichi.jp/articles/20181220/dtl/k31/040/478000c?_ga=2.92988248.452341292.1545402040-1191680375.1522937569

> たんの吸引や胃ろうなどの医療的ケアが必要な子供たちが宿泊体験を通じて同世代の子供との交流を深めたり、新たな刺激を受けたりする取り組みが県内でも始まっている。

大山山麓（さんろく）にある「ホテル大山しろがね」（大山町）の敷地内。花火で辺りが明るくなると、子供たちの歓声が上がった。バギー型車いすに乗った子供も、保護者らが花火を近づけると表情を和らげた。医療的ケア児9人とその家族が参加した今夏の大山キャンプだ。

こうした外出の機会が少ない子供たちのためにと県が初めて実施した。医療関係者や民間団体、学生ボランティアら60人近くが支援に入った。2泊3日の日程では花火の他、星空鑑賞や移動動物園などのさまざまな遊びをして過ごした。

心臓や呼吸器の病気があるという大西康介ちゃん（5）＝米子市＝は双子の弟勇輝ちゃんらと参加。ボールで遊んだり、花火をしたりして「楽しかった」とにっこり。母紘子さん（40）も「（子供2人の）どちらにも我慢をさせてしまうことが多い。ここではそれぞれのやりたいことをさせてあげられる」とほっとした表情を見せた。

清水杏梨さん（9）＝同市＝は今回初めて家族と離れて2泊3日を過ごした。両親や姉は初日の開会式のみ出席し、母愛子さんは「『冒険』をさせてみようと思った。親以外との関わりが普段と違う刺激になれば」と期待した。

支援した鳥取大医学部附属病院小児在宅支援センターの玉崎章子医師は「医療的ケアの必要な子供はどうしても特定の人と接するだけになりがち。社会に出て行く上での経験を積むいい機会になる」と話した。

…などと伝えています。



花火を楽しむ子どもたち＝鳥取県大山町のホテル大山しろがねで